

私学助成署名推進ニュース

全国私学助成をすすめる会(事務局:全国私立学校教職員組合連合)
No.33 2023年12月15日(金)

12・8「学費の公私間格差・自治体間格差是正を求める院内集会」その1

全国250人が思いをひとつに「私学も無償に」

12月8日(金)、衆議院第一議員会館の大会議室で「学費の公私間格差・自治体間格差是正を求める院内集会」が開催され、全国27都道府県から高校生18人、父母135人、教職員81人、計250人が参集しました。国会議員は本人40人、代理57人、計97人が出席。集会の直前に東京都の所得制限撤廃や京都府の制度拡充の動きが報道されたため、国会会期末目前のあわただしさにもかかわらず、野党第一党の代表や元文科大臣を含む多くの国会議員が駆け付け、ほぼ全員が「超党派で」「国の責任で無償化を」と力強く宣言。「私たちの運動が情勢を大きく動かしている」「議員も本気で応えている」という確信が、300人でいっぱい埋まった会場全体にみなぎる集会となりました。(国会議員のあいさつ要旨は「その2」に掲載)



冒頭、挨拶に立ったすすめる会共同代表の北澤由実子さんは、ご自分の住む富山県の隣の福井県の学費補助の前進を引き合いに「生まれ育った場所で条件が異なるのは差別だと子どもたちが感じてしまうのではないか。これを解消するには国が制度を拡充させなければならぬ」と述べました。同じく共同代表の山口直之さんは、学費滞納調査で滞納が増加に転じていると警鐘を鳴らし「就学支援金制度拡充は国民的要求だ」「自治体間格差の解消に向けて、国の施策で私学の無償化の前進を」と強く訴えました。



左から順に旭丘高校、北星女子 & 北星大附属高校、東洋大姫路高校の生徒たち

続いて神奈川・旭丘高校生徒会総務の2人が発言に立ち、私学助成の学び、街頭署名や夏の国会議員要請などに参加して理解を深めてきたと述べ、神奈川県の高校生として東京都の拡充に触れつつ、「教育は権利」「公立私立の区別なく、都道府県も関係なく、学びたいところで学びたいことを学べる社会になることが今の日本には必要です」と真正面から力強く訴えました。

国会議員の挨拶に続いて、さらに高校生や父母が発言しました。北海道・北星女子と北星大附属の3人は、生徒会の「授業料正常化委員会」や学校説明会での私学助成運動のとりくみを紹介し、教室にエアコン設置の必要を訴えました。兵庫・東洋大姫路の2人は「はじめてこの集会に参加して、今から私たちにできることがあると感じた」と述べました。続いて、埼玉・自由の森学園の守谷佳奈さんと福岡・祐誠の居石(すえいし)和隆さんが、いずれも現役父母の立場から、率直な思いとともに制度拡充の必要性を語りました。

同日午後、場所を新宿駅近くの角筈区民ホールに移して、公立と共催の「教育全国署名集約集会」が開催されました。私学164人、公立73人、計237人が参加。特別報告では、埼玉の公立教員に続いて愛知父母懇の西手尚子さん、さらに東京・大東学園高校の生徒2人が発言しました。集会最後に、公私合わせて212万5455筆の集約数が報告され、会場は大きな拍手に包まれました。

最後に参加者全員で、新宿駅南口周辺をパレード。約20人の高校生を先頭に、夕間迫る新宿の駅前をコールに合わせて練り歩きました。

国向け私学助成署名の提出は2月です。
もうひと回り大きな動きを全国で起こして、1筆でも署名を増やしていきましょう。



右、祐誠高校の居石さん
左、自由の森学園の守谷さん